

Book Talk

ブックトーク 手嶋龍一 一枚のニセ札発見から始まる国際情報戦争

『ウルトラ・ダラー』
新潮社 定価1575円



へこれを小説だと言っているのは著者だけだ！との挑戦的なコピーをひっさげて、前NHKワシントン支局長の手嶋龍一氏が昨年の独立後、初めて小説「ウルトラ・ダラー」を上梓した。

一九六八年暮れ、荒川に住む彫刻職人が忽然と姿を消した。八八年には米ドル紙幣の用紙を独占的に供給する製紙会社の極秘パルプ原料が盗まれた。八九年にはスイスの印刷機メーカーの製造した最高級紙幣印刷機が行方不明になり、九〇年にはデンマークで高級美術印刷会社社長が失踪した。

そして二〇〇二年、ダブリンに超精巧偽百ドル札「ウルトラ・ダラー」が現れた。「これじゃ真札だ。どこにも瑕なんかありやしない」と捜査官を唖らせた出来栄だ。震源は「北」。

この情報を追うのは、BBC東京特派員を隠れ蓑にした英国情報部員、ス

ティーブン・ブラッドレーと官房副長官の女性キャリア高遠希恵、アメリカ財務省女性シークレット・サービス、オリアナ・ファルコネだ。

だが、香港、パリ、ワシントン、東京、モスクワの情報戦争の果てに彼らが最後に辿りついた真相は、北朝鮮の偽札事件どころではない国際的な陰謀だった。

NHK時代から政治部記者、海外特派員として生々しいインテリジェンス（機密情報）に接してきた著者が独立してから取材を重ね、丹念に集めた外交機密のピースを日々動く現実に向てはめながら、処女作を脱稿したのは昨年夏のこと。

「そうしたら九月に米財務省がマカオの金融機関バンク・デルタ・アジアを北朝鮮の紙幣偽造や資金洗浄に關与した疑いで全米金融機関に取引禁止を通

達したことを始め、小説に書いた預言が次々に現実になってきたんです。

実際には、現在流通しているスーパーノートなどの偽札に対抗する改定百ドル札が登場するのが〇七年ですから、その偽札であるウルトラ・ダラーが登場するのはそれ以降。ここに書かれていることは未来の出来事で今は小説であることは確かですが、〇七年以降には現実となっていくでしょう」

ポンコツMGBを操り、新橋の料亭に出入りする主人公のブラッドレーだけでなく、登場する人物のほとんどは現実に存在すると著者は語る。

「苦労したのはブラッドレーの恋人である篠笛の師匠麻子。この小説を単なる北朝鮮話にしたくなかったので、彼女のリアリティを担保しながら大きな枠組みにできるかが最大の難関でした」

その二人の再会が最大のクライマックス。スパイ小説として読んでも恋愛小説として読んでも、感動のシーンだ。

てしまりゅういち 一九四九年北海道生まれ。NHKワシントン支局長（当時）として9・11テロで十一日間連続中継を担い、昨年独立。著書に『ニッポンFSXを撃て』など。